

ミカンサビダニの防除対策

ミカンサビダニは例年 6～7 月に薬剤を散布することで初期の増殖を抑え、被害を防いできましたが、近年梅雨明け後に高温、少雨が続くことで、8 月下旬以降遅くまで被害が発生することが多くなっています。ミカンサビダニに加害されると、果実の外観が非常に悪くなり、商品価値が著しく低下します。きれいなミカンを作るため、防除対策を徹底しましょう。

ミカンサビダニの発生生態

ミカンサビダニは、カンキツ類でのみ発生します。冬の間は芽の鱗片の隙間に入り込み、越冬していますが、気温が上昇して新芽が伸長すると葉上で増殖を始めます。葉上での寄生密度が高くなると、葉がゆがんだり、褐色のすじができたり、葉裏が黒く汚れたりという症状が現れることがあります(図 1)。



図 1 新葉での被害

6 月上旬頃に葉から果実へ移動、増殖して加害を始めます。果実が早い時期に加害されると、灰白色でがさがさとした被害(図 2)が生じ、後期に加害されると、茶～黒褐色(図 3)になります。気温などにもよりますが、11 月頃まで果実上での増殖、加害は続きます。

ミカンサビダニは成虫の体長が 0.2 mm にも満たないほど小さく、薄黄色でくさび形をしています。果実上で発生量が多くなると、サビダニが密集しているところがうっすらと粉をまぶしたように見え発生に気付くことがありますが、非常に小さい虫なので密度が低い時などに肉眼で観察するのは困難です。さらに、ミカンサビダニは増殖率が高く、被害が短期間で広がることがあります。



図 2 前期加害の被害果実



図 3 後期加害の被害果実

平成 28 年度の発生状況

平成 28 年度は、ミカンサビダニによる 6～7 月頃の前期被害は少なかったのですが、8 月以降被害が増え始め、10 月～11 月には例年にないほど被害が多発しました。

ミカンサビダニは高温少雨で増殖しやすく、長雨や強風雨時には増殖が抑制されます。平成 28 年度は梅雨期に雨が非常に多く、ミカンサビダニの増殖が抑えられたため、初期のミカンサビダニの被害は少なく推移しました。梅雨明け後は 9 月の月上旬頃まで高温少雨が続く、ミカンサビダニの増殖が進んだと考えられます。その後は 9 月に一時的に大雨があったものの 10 月、11 月と気温が高く、遅くまでミカンサビダニの増殖に適した条件であったと考えられます。更に、9 月に降雨量が多かったため、8 月中旬から 9 月に散布された薬剤の効果が切れてしまった可能性があり、このことで 10 月以降の多発生につながったと考えられます。

ミカンサビダニの薬剤防除

ミカンサビダニには、葉から果実への移動を防止するために 6 月上中旬に必ず薬剤を散布するとともに、例年被害が多発する園やその近隣園では 7 月上中旬にも薬剤を散布します。さらに、8 月以降にミカンサビダニによる被害の発生が確認された園や例年多発する園では 8 月中旬以降にも薬剤を散布します。近年は 9 月以降の気温が高いことで遅くまで被害が続くことがありますので、その後も発生に注意し、新たな被害が発生し始めたら再度薬剤を散布します(表 1)。

表 1 ミカンサビダニに対する防除薬剤

散布時期	薬剤名	備考
6月上中旬	(チャノキイロアザミウマを同時防除する場合) コテツフロアブル マッチ乳剤 ハチハチフロアブル アニキ乳剤	果実への寄生を防止する最重要時期である。
	(ミカンサビダニのみ防除する場合) サンマイト水和剤 ダニカット乳剤20	
	(カイガラムシを同時防除する場合) アブロードエースフロアブル	
7月上中旬	6月上中旬に同じ	前年多発園、管理不良園に隣接する園では散布する
8月中旬以降 (新たに被害発生が認められた場合)	(チャノキイロアザミウマを同時防除する場合) コテツフロアブル マッチ乳剤	発生が認められた場合には早急に防除する 多発生の場合はサンマイト水和剤で防除を行う
	(ミカンハダニを同時防除する場合) パロックフロアブル ダニエモンフロアブル	
	(ミカンサビダニのみ防除する場合) サンマイト水和剤 ダニカット乳剤20 マイトコーネフロアブル	

※サンマイト水和剤にマシン油乳剤を加用するとサンマイト水和剤の効果が低下するので、注意する。

近年は梅雨期に降雨量が多く 6～7 月に被害が少ない場合でも、8 月下旬以降に被害が急激に発生する事例を多く見かけますので、必ず園内や周辺園を確認してミカンサビダニによる被害が新たに発生している場合は早急に薬剤を散布しましょう。

時々「薬剤を散布したのにミカンサビダニによる被害が多発した！」という声を聞くことがありますが、被害の状況を見ると、薬剤のかかりムラが原因であると思われる事例も見受けられます(図 4)。ミカンサビダニは非常に小さいので、ざっと散布してしまうとかかりムラが非常に多くなり、せっかく薬剤を散布しても十分な防除効果が得られません。薬

剤散布時には、薬液が霧状に出るディスクノズルを使用し、果実を一個一個薬液で包み込むように丁寧に散布します。また、内側や裾部の果実、枝の陰になっているような果実にもムラなく薬液が到達するよう、十分量を丁寧に散布します。

なお、ミカンサビダニが寄生・加害して果実に被害が出始めるまでには 2～3 週間程度かかると言われていています。被害が出始めてから防除を行っても、その後 1 ヶ月近く被害果実が増加していく可能性があるということです。そのため、被害が多発する前に防除を徹底する必要があります。特に例年多発しているような園では、6 月、7 月の防除は確実にを行い、8 月以降の被害の状況をしっかりと確認して、新たな被害果実を確認したら早急に薬剤防除を行ってください。被害は日当たりのよいところに発生しやすいので、そのような部位をよく観察します。



図 4 薬剤のかかりムラ
(薬剤が付着したところには被害がない)